

報告案件（3）豊田市地域公共交通計画の令和5年度の実績報告及び次期計画の進捗状況について

1 令和5年度の個別施策の実施状況

- ・現計画の計画期間は、令和4年10月から令和8年3月まで
- ・全32の個別施策を展開、その中でも「生活交通の再構築」を重点施策として位置付け
- ・以下は、令和5年度に新規で取り組んだ個別施策である

施策群	R5年度の主な取組実績（新規）
基幹バスの運行	改善基準告示に伴い、現行のサービス水準を維持するため、おいでんバス10路線でダイヤ改正の見直しを検討
交通環境の整備	豊田市駅西口集約のための仮バス停及びサイン整備の実施
公共交通の利用促進	おでかけバス70販売促進に向けたキャンペーンの実施（メグリア、とよたSDGsポイントとの連携）
生活交通の再構築 （★重点施策）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域バス運行形態改編に向けた実証運行の実施（高岡、上郷） ・水源町でのコミュニティ・カーシェアリング（地域で車を共同利用した支え合い活動）のテスト運行の実施
先進的で環境に優れた技術の展開	とよたおいでんバス（中心市街地玄関口バス）でEVバスを用いた自動運転の実証運行

2 計画指標の状況

- ・1日あたりの公共交通利用者数 （単位：人/日）

	R1	R2	R3	R4	R5	R7目標
1日あたりの公共交通利用者数	93,620	60,843	66,989	73,372	79,168	77,000
内訳	鉄道（名鉄・愛環・リニモ）	74,053	50,116	52,564	57,458	62,728
	基幹バス・地域バス等	15,614	8,669	12,415	13,519	14,327
	タクシー	3,953	2,058	2,010	2,395	2,563

⇒利用者数は、コロナ禍の状況から毎年度増加傾向にあり、目標値に到達している

- ・おいでんバス等の利用者1人あたりの市の財政負担額 （単位：円/人）

	R1	R2	R3	R4	R5	R7目標
おいでんバスの利用者1人あたりの市の財政負担額	229	392	341	312	278	280
地域連絡バス及び地域内交通の利用者1人あたりの市の財政負担額	1,260	1,819	1,725	1,595	1,574	1,300

⇒利用状況の改善により利用者1人あたりの市の財政負担額も減少し、目標値に近づいている

3 今後に向けて

- ・個別施策は順調に実施、指標についても改善しているため継続して実施する
- ・計画指標の利用者数は、既に目標値を達成しているため次期計画策定に合わせ見直しを図る

4 次期計画の進捗状況について

第1回委員会を7月19日に開催し、以下の事項について協議を実施
 参加者：学識経験者2名、バス事業者3名、鉄道事業者2名、タクシー事業者1名、
 交通政策課1名、（一財）地方自治研究機構1名 計10名（事務局を除く）

①豊田市の公共交通の現状と次期計画の方向性

- ・現計画の進捗状況、おいでんバス利用者数推移
 - ・次期計画に向けた課題や（仮）基本理念、（仮）基本方針
- ⇒次期計画はこれまでのバスに特化した内容ではなく、鉄道やタクシーも含めた、**豊田市全体の公共交通が見える計画**を目指す

②調査研究企画書（案）

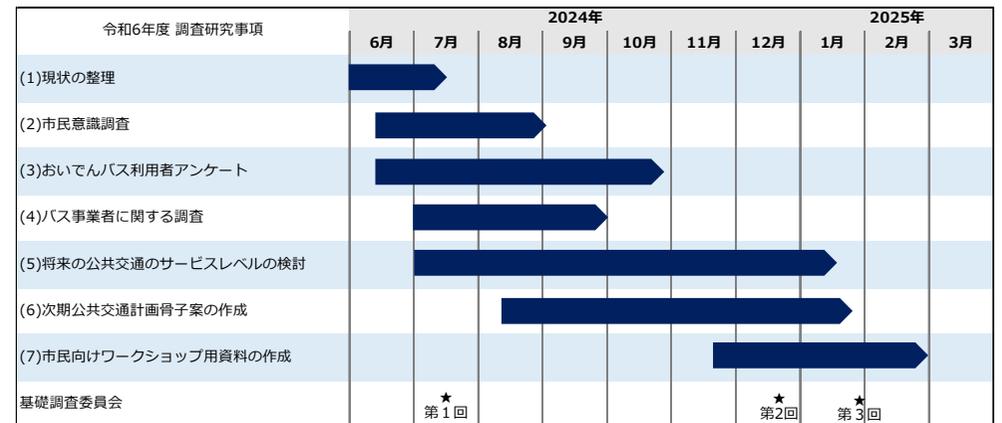
- ・今年度実施する実態調査（利用者アンケート及びバス事業者ヒアリング）の手法や内容
- ・将来のサービス水準を検討するためのシミュレーションの手法

次期計画に向けた課題等に対する、委員から意見は以下のとおり

運行の課題
・乗務員不足（離職、高齢化に伴う退職など）
・利用者の減少（タクシーについてはコロナ前の70%程度）
・利用者の高齢化に伴うバリアフリー化の推進
計画策定について
・現計画の目標が達成されていることについて考察が必要
・利用者の減少はコロナだけでなく、人口減少も要因となっているため比較必要
・財政負担額を抑えることで、乗務員の採用の削減につながる恐れがある

5 計画策定に向けた今後のスケジュール

今年度の基礎調査研究は以下の調査スケジュールのとおり実施中。



- ・第1回委員会での意見や今後の調査結果については、各委員（事業者）と個別に協議・調整を進める
- ・第2回委員会は、スケジュール（2）～（5）で行う調査・検討の結果や、第1回から第2回までに各事業者と個別調整した事項について協議・報告を実施する